島田文雄
退任記念展

会期：2015年12月15日㊋～12月24日㊍

会場：東京藝術大学大学美術館 陳列館一階

主催：東京藝術大学美術学部・東京藝術大学大学美術館

GEIDAI MUSEUM

ご挨拶

1969年3月、東京藝術大学受験日の上野公園一面の銀世界が鮮烈に印象に残っています。そして工芸科に入学し陶芸を専攻しました。3年次に田村耕一教授から湯のみ千個作ってみなさいと言われました。陶器は轆轤を挽き、高台を削り、絵付け、釉掛け、酸化や還元焼成の工程を終え、初めて世の中に誕生する作品となります。結局、千個を作り終えたのは半年後の9月でした。以来、作品を作り続け、早くも上野の山と藝大とは46年間と約半世紀にわたるお付き合いとなりました。

私の作陶は、野の草木のスケッチから始まりました。春の入学式になるとまっ白に咲きほこっていた藝大美術部正門横のこぶしの花（現在はありませんが）に始まり、三鷹の花屋のトルコ桔梗、上総の山道に咲く螢袋、川口グリーンセンターのカトレア、洋蘭、木場公園の向日葵、故郷佐野のカタクリ、梅林、葛生のアカンサス、深川牡丹町公園の牡丹など、草木を素描し、陶芸に表現してきました。この退任展も一つの区切りとして、また新しい草花を求め、山野を歩き、より高い次元を求めて作陶に打ち込んでまいります。

私が教育で大切にしてきたことは、1、陶芸の轆轤技法の習得と形態を考えること。2、創作に当たっては自分の中の様々なアイディアや可能性に気づき、自分の中の多様性を発見するように努めること。3、工芸の特性をふまえた自ら学び、自ら習うという姿勢を身につけることです。

また22年前1年間イギリスを拠点に欧州14カ国研修旅行したことを契機に国際交流に力を入れ、世界で通用する人材の育成に尽力してきました。国内・海外でかつての教え子たちが、大学教員や陶芸作家としてそれぞれの世界で活躍しています。

東京藝術大学在籍中は皆様には、たいへんお世話になりました。芸術家は日々進化しなければならないもの。また、留まることが許されない厳しい世界が芸術ではないかと考えます。なお一層、日々、感性を磨きつつ作陶の世界を邁進してゆきたいと思います。退任記念展を是非ご高覧下いただければ幸いです。

島田文雄

彩磁花卉文大壷　径32.5cm×高29.0cm　（2014年）

彩磁朴花文面取大壷　径36.5cm×高32.7cm　（2014年）

彩磁アカンサス文大壺　径27.0cm×高34.5cm　（佐野市立吉澤記念美術館蔵、2007年）

彩磁牡丹文大壷　径33.0cm×高27.6cm　（2014年）

青白磁トルコ桔梗文八角大皿　（東京藝術大学大学美術館蔵、1974年）

彩磁アロエ文八角大皿　径49.6cm×高7.8cm　（1995年）

彩磁朝鮮朝顔文大皿　（東京国立近代美術館蔵、2008年）

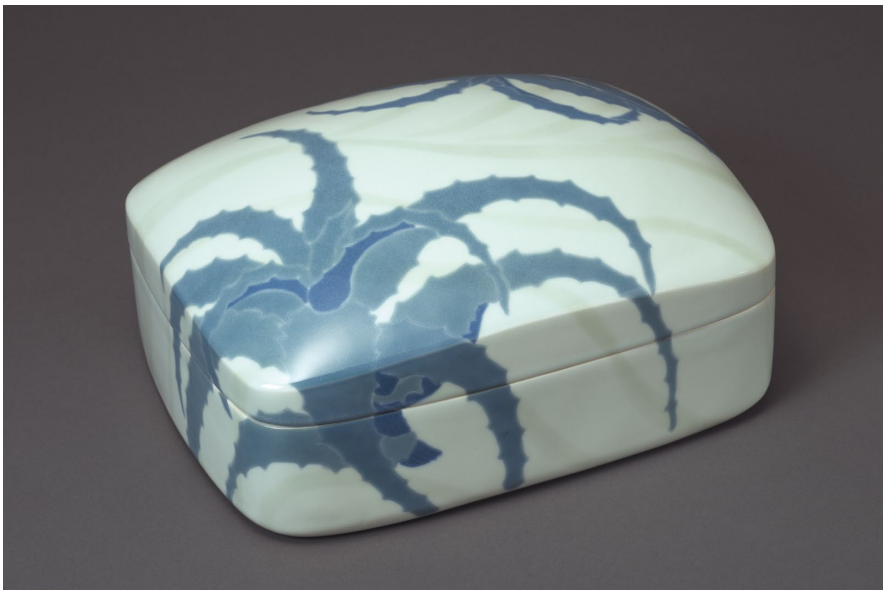
青白磁栄螺文輪花鉢　径41.5cm×高8.0cm　（2011年）

彩磁花鳥文大皿　径47.5cm×高6.8cm　(1995年)

彩磁アカンサス文大皿　径50.0cm×高4.0cm　(2007年)

彩磁花鳥文大皿　径47.5cm×高6.8cm　(2011年)

彩磁トルコ桔梗文陶筥　（佐野市立吉澤記念美術館蔵、1991年）



彩磁アロエ文陶筥　（東京藝術大学大学美術館蔵、1992年）

彩磁八重鉄線文陶筥　幅29.3cm×奥行23.5cm×高10.0cm　（2015年）

青白磁魚文大鉢　径42.6cm×高8.5cm　(2006年)
平成16～18年度　科学研究参考作品　中国龍泉窯にて制作

釉下彩カトレア文皿　径26.6cm×高3.0cm　(2012年)
平成22～24年度　科学研究参考作品　清華大学鄭工房にて制作

釉下彩向日葵文壷　径27.4cm×高30.0cm　(2014年)
釉下彩技法研究参考作品　中国 醴陵・紅官窯にて制作

左から 彩磁洋蘭文香炉　径7.2cm×高9.1cm　(2015年)
彩磁カトレア文香炉　径11.0cm×高11.2cm　(2010年)
彩磁柿文香炉　径12.3cm×高9.9cm　(2008年)
青白磁彫文香炉　径6.5cm×高9.1cm　(2015年)
青白磁彫文香炉　径7.4cm×高9.3cm　(2015年)
彩磁牡丹文香炉　径6.7cm×高8.8cm　(2015年)

左から 彩磁花卉文茶碗（桔梗）　径12.7cm×高7.4cm　(2011年)
青白磁牡丹文茶碗　径12.4cm×高7.2cm　(2012年)
青白磁草花文輪花鉢　径15.0cm×高6.3cm　(2012年)
青白磁松文茶碗　径11.8cm×高7.1cm　(2012年)
彩磁花卉文茶碗　径13.5cm×高6.7cm　(2011年)

左から サガファイア茶碗（アメリカにて制作）　径10.2cm×高10.0cm　(2002年)
野焼碗（ケニヤにて制作）　径11.2cm×高9.0cm　(2008年)

朝露にかがやく花のように――島田文雄の彩磁・青白磁

末武さとみ
（佐野市立吉澤記念美術館　学芸員）

島田文雄がつくりだす器たちの、あのみずみずしい美しさを何にたとえよう？

そう考える時、朝の散歩道で出会う花たちのささやきが胸によみがえる。作品によく花が描かれるということもあるが、島田作品の芯にあるものは、花の持つ本質的な何か―花の持つ生命のかがやき―に似ているように思えてならない。これが勝手な思い込みでなく、作家の理想に近いものであることが、次のような言葉によっても裏づけられるだろう。

> 花等の動きや全体の空気を表現しようと努力しています。非常に大変な仕事ですが、花の持つ強さ、朝露の瑞々しさとか風に吹かれてそよいでいる姿など、そういう雰囲気を考え、模様、配置、色調とかに出てくればいいと思って仕事をしています。
>
> 「島田文雄　生きた草花を磁器に表現」『月刊美術』178、1990年

陶器に比べて、「磁器」は、涼やかでシャープな表現が可能な一方で、冷たく硬い印象を持たれがちである。この「磁器」に、花や草の息づかいを、生命を吹き込みたい―作家の理想はこういった点にあるようだ。このテキストでは、島田文雄の作陶の軌跡をたどりながら、作家がどのようにこの理想を追い、そして迫りつつあるのかをさぐってみたい。

1. 青白磁に出会う（1948～1970年代）

島田文雄は昭和23年（1948）、佐野市に生まれた。女2人・男5人の七人兄弟の下から2番目である。5歳上の次兄・哲男（1943~2012。結婚により松本姓。日本画家。日本美術院同人、元東北芸術工科大学長。）が子どもの頃から画才を発揮するのを見て少年期を過ごす。一方、鍛金作家として活躍していた三井安蘇夫（1910～99）は、父の仲の良い同級生だった。この環境の中で自然に芸術の道を志すようになった島田は、紙の上よりも手の中で「もの」を創り上げていくことに喜びを見つけ、東京藝術大学美術学部工芸科にすすむ。当時の工芸科では、先述の三井安蘇夫と田村耕一（1918～87、陶芸、のち鉄絵で人間国宝に認定）という二人の佐野出身の作家が教授をつとめていたが、島田自身は木工デザインに心をひかれていたようだ。しかし、田村から掛けられた「轆轤を挽くと無心になれるよな」という言葉をきっかけに、陶芸の道へつきすすむことになる。卒業制作は《鉄絵花鳥文大皿》（**図1**）。陶器の作品である。白化粧土に鉄絵・掻き落としという技法やいきいきとした線からは、中国・磁州窯の器が連想される。現在まで一貫して島田が持ち続けている中国陶磁への関心、そして生命感あふれる線への志向がすでにあらわれている。

大学院に進んだ島田は、いよいよ磁器に取り組む。《染付トルコ桔梗文八角皿》《色絵トルコ桔梗文八角皿》など（**図2～6**）を見れば、染付や磁器においても十分な技量を獲得していたことがわかるが、島田を魅了したのは「青白磁」（「影青」ともいう）だった。MOA美術館の宋時代の《青白磁蓮花文皿》に出逢い、自由闊達な線、彫りの深いところに溜る釉薬の薄青い発色など、たちまちその世界に夢中になったという。さっそく《青白磁彫文八角皿》で、修士課程在学中にして伝統工芸展に初出品・初入選を果たす（1974年）。釉薬の調合の研究を重ね、翌年には修了制作《青白磁陰刻草花文八角皿》が大学買い上げとなり、さらにその直後、第15回伝統工芸新作展に出品した《青白磁陰刻草花紋皿》（現名称：青白磁陰刻草花文皿）が日本工芸会長賞を受賞するという快挙を遂げている（1975年）。

このように、早々に目覚ましい成果を挙げた島田だが、どちらかというと才気走ったタイプではなかったようだ。33歳の時の日本橋三越での第1回個展の際に、師のひとりである藤本能道（1919～92）が寄せた言葉にそれがよく表れている。

> 島田君は現在、東京芸大陶芸の非常勤助手をしています。仕事ぶりは、どちらかと言えば手際よくす早くやれる人ではありません。ゆっくりと、むしろ鈍と思える程、慎重で、見ていると多少いらいらしてくるような所があります。だが、それだけに確実性があり一歩一歩を大切にして行く人だと思います。彼の地味な地をはう様な仕事に私は長い目の期待を感じています。（後略）
>
> 『島田文雄作陶展』パンフレット、日本橋三越、1981年

さて、島田の作陶の基礎となる要素の多くは、この時期に固められている。修士時代に開発した青白釉（通称「島A」）などは、90年代末まで青白磁の作品に使用される。土も、この頃に工夫したものを現在に至るまで用いている。やや灰色を帯びた京都の土に天草の白い石をブレンドしたもので、「真っ白ではなく少しあたたかみのある白さ」とやわらかさが気に入っているという。成形はもちろん轆轤を主とする。そして彫り。傘の骨を折り曲げて作った独自の道具で、すいすいとリズミカルに彫ってゆく。やや幅広の溝が斜めにできる「片切り彫り」で、厚く溜まった所が淡い青色に見える性質を持つ青白釉をかけると、微妙な陰影を持つ線が浮き上がる。

現在の島田は「彩磁」の作家として知られているが、ここで見てきたように、その原点には「青白磁」があることはよく覚えておきたい。青白磁は単なる「色のない時代」ではなく、常に島田の作陶の骨格をなし、さらに近年の仕事の展開の重要な一端を担っているのである。

2. 彩磁への挑戦（1980～90年代）

トルコ桔梗や鉄線などの草花を題材とする青白磁の作品に取り組んでいた島田は、ある時ふと「ここに色があったらきれいだろう」と思う。ちょうどそんな頃に出かけたのが、出光美術館の「板谷波山展」（1977年）である。まずは彫りの素晴らしさに目を奪われる。東京美術学校（現・東京藝大）の彫刻科で高村光雲に木彫を学び、のちに陶芸家となった板谷波山（1872～1963）は、「薄肉彫り」という緻密で立体的な彫りで、葉のふくらみや葉

図1　鉄絵花鳥文大皿

図2　染付トルコ桔梗文八角皿
（佐野市蔵）

図3　色絵トルコ桔梗文八角皿

図4　色絵梔子文鉢

図5　染付蜻蛉文鉢

図6　赤絵槿花ニ蝶文壺

図7　青白彩磁草花文蓋物
（佐野市立吉澤記念美術館蔵）

脈、花弁の重なりを見事に表現する。また、器面を薄いヴェールが覆うような「葆光釉」、そして花たちに生命を与える色彩の美しさに、息のんだという。この色彩こそが「彩磁」だった。

「彩磁」は色絵（上絵）とちがい、釉薬をかける前の段階で素地に色をつける技法の一種である。釉下に絵付けをするものとしては、古くから「染付」などがあるが、こちらは不溶性顔料である。明治期にはさまざまな陶工が西洋の最新技術「釉下彩」を研究するが、なかでも板谷波山による「彩磁」は水溶性顔料を用いるもので、水彩絵の具のようなやわらかな色彩の表現が可能である。ただし、彩磁の絵具は素地にしみとおって裏側にまで色が出る性質があるため、複数回の色止め焼成が必要であり、着彩から焼成の間の温度・湿度などの状況によって発色が変わるなど、気の遠くなるような多数のハードルを乗り越えて制作されるものである。あこがれる人は多いが、使いこなしている作家は現在もきわめて少ない。

島田が波山作品に出会った時、波山没後から10数年が経っていた。彩磁についての情報がほとんど知られていない頃で、波山晩年の門人だった林敏夫氏（1933～99）の「塩化クロムや硝酸コバルトを使った」という言葉を頼りに、島田は顔料の調合とテストに取り組む。その成果として、青白磁に赤などの色がそっと置かれたような作品が1980年頃から出現する（**図7、8**）。これが島田の「彩磁」の最初のあゆみである。

この最初の取り組みから数年間、さらに多くの絵具とあたらしい釉薬の準備をすすめ、1984年から10数色を用いた「彩磁」の作品を発表、本格的な彩磁の時代に入る。あたらしく創り出した釉薬は「9番マット」。1270度前後で還元焼成すると、白っぽい霞がかかったような効果が得られるマット釉（失透釉）である（焼成温度が高いと透明釉となる）。彩磁を施した上にマット釉をかければ、彩磁の発色を白くやわらかに抑える。また、つや消し状になり、落ち着いた表情をまとう。《彩磁桔梗文香炉》（**図9**）は、彩磁の比較的早い時期、1987年頃のものだろう。以後1990年代末に至るまで、彩磁には焼成温度その他の状況により様々な表情を見せるこの釉を用いている。

このように釉薬と色彩の上で大変化を迎えるが、彫りのスタイルは基本的に変えていないという。波山の薄肉彫に驚嘆はするものの、島田の彫りの理想は、あくまで宋の青白磁のおおらかさにあった。即興の線の味わいを大切にするため、あまり綿密な下絵は作らない。そのかわりに繰り返されるのは、実際の花たちを目の前にしての素描である。「花に出会うと描きたい。去年その花は十分描いたから、今年はもう描かないということはない。今年もまた、花を見て線の感激を味わいたい。頭で記憶した花の線は、単調なものでしかないですから」[註1]という言葉のとおり、同じ種類の花を何度も、あるいは咲き始めから散るまでの毎日の様子を、迷いのない線で描いている（**図10**）。

1980年代半ばから90年代末にかけて、島田は着実に彩磁の仕事をすすめているが、その主なものをここで概観しておこう。牡丹、桔梗、露草、釣鐘草といった花たちを絵画的に描写するスタイルは1980年代半ばから始まり現在まで用いられている（**図11**など）。1980年代末～1990年代初頭には、《彩磁釣鐘草文鉢》（**図12**）のように、マット釉の彩磁の区画と青白釉の区画とを併せ持つ作品が印象深い。1990年代には、動物の脚を思わせる足を持つ《彩磁トルコ桔梗文香炉》（**図13**）のような有機的なかたちや、《彩磁蘭文大皿》など曲線を多用したものなど、器形への意欲的な取り組みがなされている。1990年代半ば～後半には《彩磁三光鳥文大皿》（**図14**）など、濃密な彩色で表現されたどこか異国的な香りをまとう文様が生みだされており、島田のデザイン力の豊かさを感じさせる。

このように、彩磁という困難な技法の追求において着実に成果をあげつつあった島田は、1年間の欧州滞在を終えた1994年、東京藝術大学陶芸講座の助教授となった（のち2003年に教授）。長く大学にいる島田は、教育者として多くの若者を送り出しているが、その極めて精力的な活動の一端をここで紹介しておきたい。ジャパン・セラミック展（1979年）など海外での作品紹介の機会は早くからあったが、助教授就任後、海外での活動が目立って増えている。最も注目されるのは、国際陶芸交流学会（ISCAEE）についてだろう（**図15**）[註2]。島田は1996年から、アメリカ・タコマ・コミュニティー大学教授のリチャード・マハフィー氏と協力して、日米の学生を相互に派遣して行う交流授業に取り組んでいる。互いの国の陶芸事情にふれ、より広く自由な視野で制作を行うことができるこの事業は、中国・韓国・トルコ・メキシコなど次第に参加国を増やした。そして2006年に、中国・清華大学美術学院教授の鄭寧氏の呼びかけによって創立が実現した国際組織がISCAEEである。島田は同学会の会長をつとめるほか、各国で招待教授・客員教授として迎えられ、国際的な視野で陶芸家を育成する場において求心的な役割を果たしている様子がうかがえる。

3.「彩磁」を超えて（2000～10年）

さて、大学教員としての役割を十二分に果たす一方で、2000年以降の島田は、作家としても充実期を迎えている。

そのきっかけとなったのが、新たな釉薬との出会いだろう。それは、従来の「島A」よりも透明度の高い青白釉（通称タコマ青白、あるいは似た組成の「241」）で、彩磁の色彩の美しさを生かしつつ、彫りによる陰影の味わいをも楽しむことができるという効果を持つもの。学生時代に「島A」を開発する一方で、ゴム灰を用いたより青みの強い釉薬（**図16**）も断続的に試みているように、透明度の高い釉薬への志向は抱き続けていたが、ようやく理想的な釉薬に出会うことができたのである。

従来の青白磁釉やマット釉では、釉薬が彩磁の色を隠すという魅力／困難を抱えていたが、この透明度の高い釉薬を用いることにより、彩磁のより淡い発色を楽しむことができるようになった。2003年頃にはこの釉薬にあわせて彩磁絵具を調合しなおし、いっそうやわらかで澄んだ色調の創出に成功している。青白釉というかすかに青い“ガラス質の膜”をとおして見ることにより、独特のうるおいと透明感が達成されている。たとえば《彩磁アカンサス文十二角皿》（**図17**）を見てほしい。澄んだ色彩による花々の向こうに淡い青のシルエットが重ねられ、アカンサスが風にゆれつつ空に伸びあがる様子が、夏の朝のさわやかな空気感を含めて表現されている。ここに、島田の彩磁のひとつの到達点を見ることができるのではないだろうか。

図8　青白彩磁草花文大皿

図9　彩磁桔梗文香炉
（佐野市立吉澤記念美術館蔵）

図10　素描

図11　彩磁牡丹文大壺

図12　彩磁釣鐘草文鉢

図13　彩磁トルコ桔梗文香炉

図14　彩磁三光鳥文大皿
（佐野市立吉澤記念美術館蔵）

註1）近藤小桃「花。この器に抱かれて　第23回　島田文雄」『花時間』12月号、角川書店、2005年
註2）ISCAEE（http://www.iscaee.org/）および日本支部である「日本陶磁芸術学会（JSCA）」のウェブサイト（http://www.jsca.jp/about.html）。

彩磁の表現だけでなく、彫りにおいても2000年代には興味深い試みがなされている。《青白磁草花文花器》（**図18**、1998年）など、青白磁の大作に久しぶりに取り組んだ島田は「青磁は透明感が少なく、文様が沈んでしまう。白磁は彫りの部分の変化が出にくい。彫りが美しく見える釉薬はやはり、青白磁だと僕は思う」と語っており[註3]、青白磁の彫りに変わらぬ愛着を抱いていることがわかる。あたらしい釉薬との出逢いによって、青白磁と彩磁の魅力を同時に味わうことができるようになり、作家の彫りへの意欲はいっそう高まったことだろう。《彩磁山法師文大鉢》（**図19**）の、彩磁と交互に渦を巻くように表される無彩色の文様は、防水ラッカーで表面を覆う部分と露出している部分とを作り、露出部分の素地をスポンジでそぎ落とすという手法によるもの。モチーフを面的に残すことができる面白さがあるが、土の性質上1年限りの試みとなっている。また、2009年の《彩磁栄螺文輪花鉢》（**図20**）では、最も彫りの深いところに一旦釉薬を入れ、再度全体に釉薬をかけるという二度掛けが行われている。未だ部分的な試みではあるが、あたらしい釉に、島田は「表面を覆う膜」以上の役割を期待しているように思われる。

さて、さきに述べたように彩磁において一定の成果を挙げた島田は近年、永く取り組んできた「彩磁」に、別の技法を融合させる道を探っているようである。

そのひとつが、2008年の三越個展で本格的に発表された「チャイナペインティング」（洋絵具による上絵付）である。島田は、「彩磁」つまり釉薬の下に絵付を行うという技法を用いてきたが、これに釉薬の上からの絵付も併用するというものである。制約の多い彩磁にとらわれず、より自由な色彩表現を獲得するために導入され、すでに《彩磁朝鮮朝顔文大皿》（本書5頁）などの作品では、きわめて自然に、効果的に用いられている。もう一方で注目したいのが、釉薬の「透明さ」と洋絵具の「不透明さ」が可能にする表現である。たとえば2009年以降に発表された作品の中には、《彩磁石楠花文壺》（**図21**）の縞の部分のように、上の絵付の隙間をとおして下絵付けが見え隠れし、互いに干渉しあいながら、複雑で味わい深い表情を作りだすものが含まれる。

さらに近年は、中国・湖南省で行われている「醴陵釉下彩」という、不溶性顔料を用いた釉下彩技法の摂取に取り組み[註4]、試みの一部が2010年の陶芸部会新作展（《釉下彩木蓮文壺》）や「島田文雄食器展」（日本橋三越）で発表されている。さらに彩磁との併用を視野に入れてテストを重ねているという。鮮麗な醴陵釉下彩が、どのように島田彩磁に活かされるのだろうか、その成果を楽しみに待ちたい[註5]。

4. 2つの「原点」への回帰、そしてこれから（2011 ～ 15年）

以上は、『うるわしき彩磁・青白磁―島田文雄展図録』（佐野市立吉澤記念美術館、2010）に収録した文章である。それから5年。大学の退任という大きな画期を控えたこの時期、島田は、「原点」を見つめ直す2つの取り組みを行っている。

「作陶の原点」である青白磁の仕事への再度の取組みは、先に述べたように2000年頃から始まっているが、特にこの5年ほどは、中心的な課題となっているようだ。《青白磁花卉文大皿》にみられるように、「彫り」と「釉の重ね掛け」による多層的な表現は複雑さと深みを増している。全体に占める作品数こそ少ないものの、個展や公募展出品作を眺めてみても、特に力を入れていることが見受けられる。

そして、「彩磁の原点」である板谷波山への回帰も、2010年から助走期間が始まっている。島田の彩磁は波山に惹かれてのことだったが、彫りや文様構成に関しては、むしろ波山から距離を置いたところに独自性を探ってきた。しかし、「一度は正面から波山に取り組まないと」と思っていた島田は、改めて波山の仕事の跡を見つめたという。そして膨大な素描、施釉前の工程品で確認できる彫りの深さや緊密さ、焼成後に破却された陶片から垣間見える彩磁と釉の仕事など、波山作品を支える「下ごしらえ」の厚みに感銘を受けている。この「再会」を経て、2013年から、最も好きな波山作品である《彩磁唐花文花瓶》（出光美術館）や同様の文様構成の単色釉作品に本歌取りしたシリーズ―《彩磁花卉文大壺》（本書2頁）《青白磁花卉文大壺》（**図22**）など―を発表している。波山作品の「唐花文」（想像上の花）を、自ら写生を重ねた「向日葵」に置き替えつつ、緊密な文様構成・単色に近い色彩・立体的な彫りなど、波山作品にあえて倣うことで、自らの作陶を問い直すという試みを現在も継続している。

この2つの「原点回帰」の際に必然的に要請され、また島田も自身に意識的に課している課題が、「精度の向上」である。彫りは密度と線の種類を増し、葉脈など植物の持つ線の表情をより実感豊かに表現している。また、上述の「向日葵」の作品群は一見互いに似通うが、文様構成における余白の分量や、濃淡・色味などを作品ごとに変え、理想的な着地点を探り続けている。

なお、退任後に取り組みたいことを尋ねると、デザインの検討や彫りに時間をかけること、手間のかかる器形への挑戦などを挙げている。先にふれた藤本能道の言葉のとおり、もともと「ゆっくりと、むしろ鈍と思える程、慎重」なタイプの島田は、教育者としての役割を終えて獲得する「作家としての時間」の恩恵を享受し、じっくりと新しい仕事に取り組むことだろう。

陶芸を志して44年、67歳。作陶の場でもあった大学での生活をいよいよ終えるが、作陶の道はまだまだ続く。その旅は駆け足ではなく、花たちのささやきに上機嫌で耳を傾けながら、一見ゆったりとした歩みで静かにすすめられるだろう。しかし我々がそれと気付かぬうちに高峰に至り、想像を超えた美しい世界を見せてくれるにちがいない。

図15　国際陶芸交流学会（ISCAEE）

図16　青白磁線文鉢

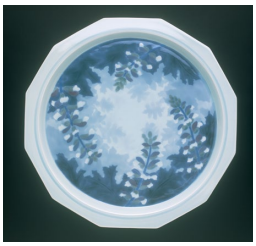


図17　彩磁アカンサス文十二角皿
（佐野市立吉澤記念美術館寄託）

図18　青白磁草花文花器

図19　彩磁山法師文大鉢

図20　彩磁栄螺文輪花鉢

図21　彩磁石楠花文壺

図22　青白磁花卉文大壺

註3）前掲（註1）文献

註4）島田文雄・張夫也・鄭寧『平成20年度芸術活動基盤充実事業「釉下彩技法と中国絵画哲学「写意」との関係調査研究報告書』東京藝術大学美術学部工芸科陶芸研究室、2009年

註5）「醴陵釉下彩」の研究は、『釉下彩技法と中国絵画哲学「写意」との関係』（平成20年度芸術活動基盤充実事業報告書、2012）および『醴陵釉下五彩磁学術討論文集』（故宮博物院ほか、2012）にまとめられた。筆と水の動きに顔料の粒子を委ねることによって独特の濃淡を出す「だみ」「墨はじき」が特徴であるこの釉下彩技法は、彩磁の「彫り」との両立が難しく、2015年現在においても彩磁作品への導入は試行錯誤中である。

島田文雄年譜

島田文雄氏提供の資料をもとに文献調査を加え、作成した。　編：末武さとみ　編集補助：渡辺郷三

凡例：① 年齢は、その年末に達する年齢を記した。
② 「おもな作品名」欄には、公募展出品作または個展の主な出品作を分かる範囲で記載した。
③ 個展等の会期は、判明しているものを記載した。公募展等については記載していない。

和暦／西暦	年齢	月	活動・展覧会出品など	おもな作品名	会場、会期
昭和23年 1948	0	4月	栃木県佐野市に生まれる。教員をしていた両親の間に生まれた7人兄弟の6番目（四男）。松本哲男（1943～2012、日本画家・日本美術院同人・東北芸術工科大学長）は次兄。		
昭和36年 1961	13	3月	佐野市立城北小学校卒業		
昭和39年 1964	16	3月	佐野市立北中学校卒業		
昭和42年 1967	19	3月	栃木県立佐野高等学校卒業		
昭和44年 1969	21	4月	東京藝術大学美術学部工芸科入学。工芸科の教授陣には田村耕一（佐野市出身）、藤本能道、浅野陽（以上陶芸講座）、三井安蘇夫（鍛金、佐野市出身）らがいた。		
昭和46年 1971	23	3月	柴田幸子と結婚、二男二女に恵まれる。		
昭和48年 1973	25	3月	東京藝術大学美術学部工芸科陶芸講座卒業。	《鉄絵花鳥文大皿》ほか（卒業制作）	
		4月	東京藝術大学美術研究科（工芸・陶芸）進学。		
昭和49年 1974	26	10月	第21回日本伝統工芸展初出品、初入選。	《青白磁彫文八角皿》	日本橋三越
昭和50年 1975	27	3月	東京藝術大学美術研究科修士課程（工芸・陶芸）修了。修了制作が大学買い上げとなる。	《青白磁草花文八角皿》（修了制作）	
		4月	東京藝術大学美術学部工芸科陶芸講座非常勤助手となる		
		4月	第15回伝統工芸新作展「日本工芸会賞」受賞	《青白磁除刻草花紋皿》	日本橋三越
		9月	第22回日本伝統工芸展	《青白磁除刻草花文八角皿》	日本橋三越
			第2回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
昭和51年 1976	28	4月	第16回伝統工芸新作展	《青白磁蓟文輪花鉢》	日本橋三越
		9月	第23回日本伝統工芸展	《青白磁草文大皿》	日本橋三越
			伝統工芸受賞作家展出品		銀座・黒田陶苑
			第4回新作陶芸展		日本橋三越
			第3回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
			坂倉新兵衛・島田文雄二人展		現代工芸藤野屋
昭和52年 1977	29	4月	第17回伝統工芸新作展	《青白磁草花文大皿》	日本橋三越
		9月	第24回日本伝統工芸展	《青白磁草花文大皿》	日本橋三越
			日本工芸会正会員となる		
			第4回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
			彩土会展（～85年まで出品）		銀座・むね工芸
			杜の会		上野松坂屋
昭和53年 1978	30	3月	第18回伝統工芸新作展	《青白磁花鳥文蓋物》	日本橋三越
		5月	第6回新作陶芸展	《青白磁鳥文陶筥》	日本橋三越
		9月	第25回日本伝統工芸展	《青白磁花鳥文大皿》	日本橋三越
			第5回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
			四四の会（～80年、87年出品）		赤坂ギャラリー玄
昭和54年 1979	31	3月	第19回伝統工芸新作展	《青白磁花鳥文壺》	日本橋三越
		5月	第7回新作陶芸展	《吹墨彫文壺》	日本橋三越
		10月	第1回島田文雄展（初個展）		銀座・むね工芸
			第6回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
			ジャパン・セラミック展		ブルーミングデール百貨店（ニューヨーク）
			東京藝術大学工芸科作品展		銀座・なかつギャラリー
昭和55年 1980	32	4月	第20回伝統工芸新作展	《青白磁草花文壺》	日本橋三越
		4月	第8回新作陶芸展	《青白磁草花文壺》	日本橋三越
		9月	第27回日本伝統工芸展	《青白彩磁草文大皿》	日本橋三越
			第7回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
			色絵壺展		銀座・黒田陶苑
			香炉展		神田工芸サロン壺好
			東京藝大・京都芸大合同食器展（81年も出品）		銀座・むね工芸
			伝統工芸選抜展出品		千葉三越
			珠工展		京都たち吉
			青磁・白磁展（84・85年も出品）		池袋西武
昭和56年 1981	33	4月	第21回伝統工芸新作展	《青白磁草花文大皿》	日本橋三越
		5月	第9回新作陶芸展	《青白彩磁蝶文鉢》	日本橋三越
		6月	第1回島田文雄作陶展	《青白磁草花文大皿》	日本橋三越
		9月	第28回日本伝統工芸展	《青白磁草花文皿》	日本橋三越
		12月	伊藤麻沙人、前田正博らと三人展		工芸　杜
			第8回伝統工芸武蔵野展「日本工芸会長賞」受賞		吉祥寺近鉄
			色絵壺展		吉祥寺近鉄
			現代生活陶芸展（～83年まで出品）		日本橋三越
			伝統工芸選抜展		ニューナラヤ
			十騎の会（～85、87年出品）		京都たち吉
昭和57年 1982	34	3月	第2回島田文雄作陶展		銀座・むね工芸
		4月	第22回伝統工芸新作展	《青白彩磁草花文大皿》	日本橋三越
		5月	第10回新作陶芸展	《青白彩磁鳥文鉢》	日本橋三越
		6月	島田文雄展		米子高島屋
		9月	島田文雄展		岡山天満屋
		9月	第29回日本伝統工芸展	《青白磁彫文組鉢》	日本橋三越
		10月	第1回島田文雄展		工芸サロン壺好
			第9回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
			食器展		青山桃林堂
			色絵陶筥展		銀座・黒田陶苑
			上杜会展（～87年まで出品）		日本橋三越
			食器展		日本橋高島屋
			橘展（～90年まで出品）		たち吉（東京、京都、大坂）
			佐藤和彦・島田文雄二人展		宇都宮西武
			壺壺現旗揚げ展		麹町福田屋
			ぐい呑、徳利展（以後84年まで毎年出品）		日本橋三越
昭和58年 1983	35	4月	第23回伝統工芸新作展	《青白彩磁朝顔文大皿》	日本橋三越
		5月	第11回新作陶芸展	《青白磁花蝶文大壺》	日本橋三越
		9月	第30回日本伝統工芸展	《青白彩磁草文大皿》	日本橋三越
		10月	第1回島田文雄作陶展		現代工芸藤野屋
			千葉県展「千葉県教育長賞」受賞		
			第10回伝統工芸武蔵野展		吉祥寺近鉄
			クラフターズ展		池袋西武
			日本現代陶芸展		スミソニアン美術館（米国）、ヴィクトリア＆アルバート美術館（英国）
			陶道会展		大阪高島屋
			東京藝大選抜展		日本橋高島屋
			香合展		日本橋三越
			百壺展		京都たち吉
			「染付技法について」『陶芸四季』12		
昭和59年 1984	36	1月	第2回島田文雄作陶展		日本橋三越
		4月	第24回伝統工芸新作展	《青白彩磁草文大皿》	日本橋三越
		5月	第12回新作陶芸展	《彩磁牡丹文壺》	日本橋三越
		9月	第31回日本伝統工芸展	《青白磁露草文大皿》	日本橋三越
			陶道会展		大阪高島屋
			選抜陶芸展		日本橋三越
			有楽会		有楽町西武
			湯呑展		現代陶芸寛土里
昭和60年 1985	37	3月	第3回島田文雄作陶展		銀座・むね工芸
		4月	第25回伝統工芸新作展	《彩磁椿文大皿》	日本橋三越
		5月	第13回新作陶芸展	《彩磁草花文壺》	日本橋三越
		7月	第2回島田文雄作陶展		工芸サロン壺好
		9月	第32回日本伝統工芸展	《彩磁椿文大皿》	日本橋三越
			選抜陶芸展　招待出品		日本橋三越
			曙窯10周年記念展　賛助出品		日本橋三越
			秀壺展		有楽町西武
			現代秀作陶芸展		新宿京王
昭和61年 1986	38	4月	東京藝術大学美術学部工芸科陶芸講座助手となる		
		5月	第14回新作陶芸展	《彩磁豆花文大皿》	日本橋三越
		6月	第3回島田文雄作陶展	《彩磁泰山木文壺》	日本橋三越（6/24～30）
		9月	第33回日本伝統工芸展	《彩磁朝顔文大皿》	日本橋三越
			第26回伝統工芸新作展	《彩磁豆花文皿》	日本橋三越
			埼玉県展「埼玉県知事賞」受賞		
			選抜陶芸展　招待出品		日本橋三越
昭和62年 1987	39	4月	第27回伝統工芸新作展	《彩磁朝顔文壺》	日本橋三越
		6月	第15回新作陶芸展	《彩磁木蓮文壺》	日本橋三越
		10月	第1回島田文雄作陶展	《彩磁牡丹文壺》	山形松坂屋（10/16～21）
			第2回島田文雄作陶展		現代工芸藤野屋
			選抜陶芸展　招待出品		日本橋三越
			香合展、酒器展		日本橋三越
			日本の陶芸展出品、国際交流基金買上	《彩磁豆花文大皿》	主催：国際交流基金、フランス
昭和63年 1988	40	4月	第28回伝統工芸新作展	《青白彩磁木蓮文大皿》	日本橋三越
		5月	第16回新作陶芸展	《彩磁桔梗文壺》	日本橋三越
		6月	第4回島田文雄作陶展	《彩磁桔梗文大壺》	日本橋三越（6/28～7/4）
		9月	第35回日本伝統工芸展	《青白彩磁釣鐘草文大鉢》	日本橋三越
			第1回島田文雄作陶展		三宅画廊
			選抜陶芸展　招待出品		日本橋三越
			ビールジョッキ展		日本橋三越
平成元年 1989	41	4月	第29回伝統工芸新作展	《青白彩磁釣鐘草文鉢》	日本橋三越
		5月	第17回新作陶芸展	《彩磁花文陶筥》	日本橋三越
		6月	第1回　陶の粋　現代陶芸作家新作展		赤坂游ギャラリー

和暦／西暦	年齢	月	活動・展覧会出品など	おもな作品名	会場、会期
		9月	第1回島田文雄“器展”	《彩磁牡丹文大皿》	銀座・工芸むら田（9/4 ～ 9）
		9月	第36回日本伝統工芸展	《彩磁露草文八角鉢》	日本橋三越
		11月	第1回島田文雄作陶展		千葉三越
			現代秀作陶芸展		万葉洞
			丹桂会		新宿伊勢丹
平成2年 1990	42	4月	東京藝術大学美術学部工芸科講師となる		
		4月	第30回伝統工芸新作展	《青白彩磁釣鐘草文大皿》	日本橋三越
		5月	第18回新作陶芸展	《彩磁木蓮文壺》	日本橋三越
		6月	島田文雄展―香炉・香合―	《彩磁釣鐘草文香炉》	岡崎画廊（6/25 ～ 7/3）
		9月	第37回日本伝統工芸展	《青白彩磁露草文大鉢》	日本橋三越
		10月	第5回島田文雄作陶展	《彩磁牡丹文大壺》	日本橋三越（10/9 ～ 14）
			現代作家展		銀座・黒田陶苑
			ニューアーティスト・ウエーブ（92年まで出品）		美術倶楽部
			共著『陶芸初級レッスン』（視覚デザイン研究所）		
平成3年 1991	43	3月	伝統工芸新作展審査員		
		4月	第31回伝統工芸新作展	《青白彩磁釣鐘桔梗文壺》	日本橋三越
		5月	第19回新作陶芸展	《彩磁釣鐘桔梗文壺》	日本橋三越
		9月	第38回日本伝統工芸展	《彩磁トルコ桔梗文陶筥》	日本橋三越
		11月	第3回島田文雄作陶展		工芸サロン壺好
		12月	島田文雄「和の器」展	《青白彩磁蕪文鉢》	日本橋三越（12/10 ～ 16）
			現代秀作陶芸展		万葉洞
			フレッチャー国際陶芸展		フレッチャー市（ニュージーランド）
平成4年 1992	44	3月	伝統工芸新作展審査員		
		4月	第32回伝統工芸新作展	《彩磁アロエ文陶筥》	日本橋三越
		6月	第20回新作陶芸展	《彩磁アロエ文陶筥》	日本橋三越
		10月	（財）日本航空協会「空の日芸術賞」受賞		
		10月	島田文雄　足瓷展		銀座・岡崎画廊
		12月	第6回島田文雄作陶展	《彩磁花鳥文壺》	日本橋三越（12/15 ～ 21）
			現代秀作花器展		銀座・万葉洞
			現代作家展		銀座・黒田陶苑
平成5年 1993	45	4月	第33回伝統工芸新作展	《彩磁トルコ桔梗文陶筥》	日本橋三越
		6月	第21回新作陶芸展	《彩磁牡丹文陶筥》	日本橋三越
		6月	空の日芸術賞により、イギリスを拠点に欧州14カ国研修旅行。		（～ 94年2月）
			島田文雄香炉展		銀座・万葉洞
			陶陶会・現代陶芸秀作展		赤坂ギャラリー遊
			21世紀の旗手たち		池袋東武
			共著『登り窯の焼成過程における窯内雰囲気の実験的研究』（平成元～ 4年度科研報告書、代表：三浦小平二）		
平成6年 1994	46	4月	東京藝術大学美術学部工芸科助教授となる		
		5月	平成の色絵―21世紀の旗手達		東武百貨店池袋店美術画廊
		5月	第1回陶陶会		赤坂游ギャラリー
		9月	第41回日本伝統工芸展	《彩磁アロエ文八角皿》	日本橋三越
		10月	第1回出石磁器トリエンナーレ展入賞	《彩文扁壺（A）》	出石町立伊藤美術館
		10月	香合展出品		新宿三越
		10月	第3回島田文雄作陶展	《「昼と夜」花入》	現代工芸藤野屋（10/8 ～ 12）
		12月	島田文雄陶筥展		銀座・岡崎画廊
			彩磁・島田文雄展		有楽町西武高輪アートサロン
			第34回伝統工芸新作展	《彩磁石楠花文面取壺》	日本橋三越
平成7年 1995	47	2月	食のうつわ展（～ 01年、04年も出品）		赤坂游ギャラリー
		4月	躍動する栃木の陶芸　島田文雄展	《彩磁アロエ文八角大皿》	宇都宮西武（4/12 ～ 16）
		4月	第35回伝統工芸新作展	《彩紋扁壺「アロエ」》	日本橋三越
		5月	第23回新作陶芸展	《彩磁アロエ文八角皿》	日本橋三越
		6月	第13回日本陶芸展	《彩文扁壺ファラオ》	
		6月	島田文雄作陶展		新潟三越
		9月	第42回日本伝統工芸展	《彩磁三光鳥文大鉢》	日本橋三越
		9月	島田文雄作陶展		一畑百貨店美術画廊
		10月	香合展（～ 99年まで出品）		新宿三越
		10月	島田文雄展	《彩磁花鳥文扁壺》	赤坂游ギャラリー（10/20 ～ 27）
		11月	東京藝術大学工芸科教官作品展	《彩磁アロエ陶筥》	東京藝術大学
			日本テレビ「美の世界―彩磁・島田文雄」出演		
			共著『もようで楽しい陶芸』『絵付けで楽しい陶芸』（視覚デザイン研究所）		
			「模様と陶技（〈特集〉〈珠玉の陶芸〉板谷波山展）」『現代の眼』485		
			「板谷波山の陶技について」『陶説』505		
平成8年 1996	48	4月	第36回伝統工芸新作展	《青白彩磁三光鳥文大皿》	日本橋三越
		5月	第24回新作陶芸展	《彩磁アロエ文扁壺》	日本橋三越
		8月	招待教授（97年も）		ワシントン州立タコマ・コミュニティカレッジ（米国）
		9月	招待教授		国立アナドール大学（トルコ）

和暦／西暦	年齢	月	活動・展覧会出品など	おもな作品名	会場、会期
		9月	第7回島田文雄作陶展	《彩磁カトレア文大壺》	日本橋三越（9/24 ～ 30）
		9月	第43回日本伝統工芸展	《彩磁洋蘭文八角皿》	日本橋三越
			盆栽の器展出品、「優秀賞」受賞	《青白磁草花文壺》	高木盆栽美術館（東京都）
			共著『かたちで楽しい陶芸』（視覚デザイン研究所）		
平成9年 1997	49	2月	彩磁の茶陶展	《彩磁つり鐘草水指》	工芸サロン壺好〈楽庵〉（2/17 ～ 3/1）
		4月	第37回伝統工芸新作展	《彩磁カトレア文大鉢》	日本橋三越
		5月	第25回新作陶芸展	《彩磁カトレア文陶筥》	日本橋三越
		5月	第14回日本陶芸展	《青白磁大皿》	東京大丸ほか
		6月	島田文雄遊陶展	《楽茶盌》	京王百貨店新宿店（6/20 ～ 26）
		9月	橘展		目白・椿山荘ほか
		9月	第44回日本伝統工芸展	《彩磁洋蘭文八角大皿》	日本橋三越
		10月	集中講義・実技指導（98年も）		中央工芸美術学院（中国）
		10月	第2回島田文雄作陶展		山形松坂屋
			「盆栽の器展」優秀賞受賞	《青白磁大皿》	
			共著『素材で楽しい陶芸』『初めて楽しい陶芸』（視覚デザイン研究所）		
平成10年 1998	50	4月	第38回伝統工芸新作展	《青白磁草文大皿》	日本橋三越
		5月	第26回新作陶芸展	《彩磁洋蘭文茶入》	日本橋三越
		7月	第5回韓日陶芸大学招待教授		慶熙大学校（韓国）
		9月	第45回日本伝統工芸展	《彩磁カトレア文大皿》	日本橋三越
		10月	第4回島田文雄陶芸展	《彩磁カトレア文大壺》	現代工芸藤野屋（10/17 ～ 21）
		10月	第1回三渓会		日本橋・三渓洞ギャラリー
		11月	21世紀の道しるべ展		大沼山形本店
			国際陶芸シンポジウム開催、米国との合同夏期講座実施、特別講演		東京藝術大学
			『島田文雄の楽しい陶芸―入門編（ビデオ全7巻　各45分）』（電通）		
平成11年 1999	51	1月	松本哲男・島田文雄兄弟展、市民講演会特別対談（新井満、俵万智）	《彩磁カトレア文大壺》	佐野市文化会館
		3月	伝統工芸新作展審査員		
		4月	第39回伝統工芸新作展	《彩磁カトレア文大皿》	日本橋三越
		6月	第27回新作陶芸展	《彩磁洋蘭文茶入》	日本橋三越
		6月	21世紀の躍動―陶芸いろ色展		丸廣百貨店・川越市
		8月	韓日陶芸大学招待教授（01年まで毎年）		江南大学（韓国）
		8月	第8回島田文雄作陶展	《彩磁面取山法師文大壺》	日本橋三越（8/31 ～ 9/5）
		8月	韓日国際陶芸展	《彩磁草花文扁壺》	江南大学美術館（韓国）
		9月	第46回日本伝統工芸展	《彩磁山法師文大皿》	日本橋三越
		10月	集中講義・実技指導（01年まで毎年実施）		清華大学美術学院（中国）
		10月	トルコ・日本・米国・中国国際交流陶芸展	《彩磁洋蘭文香炉》	アナドール大学美術館（トルコ）
		11月	島田文雄作陶展		鶴屋百貨店（熊本市）（11/24 ～ 30）
平成12年 2000	52	1月	選抜陶芸展出品		伊勢丹ギャラリー
		4月	第40回伝統工芸新作展	《彩磁山法師文大皿》	日本橋三越
		5月	島田文雄作陶展		福岡三越
		5月	第28回新作陶芸展	《彩磁椿文香炉》	日本橋三越
		6月	島田文雄作陶展		新潟三越
		6月	彩磁の華　島田文雄展		大沼山形本店
		7月	島田文雄作陶展		大丸心斎橋
		8月	IAC（国際陶芸アカデミー）会員展	《彩磁山防止文大壺》	フレッチェン美術館（独）
		9月	第47回日本伝統工芸展	《彩磁山法師文大皿》	日本橋三越
		10月	清華大学（中国）2000年国際陶芸展出品	《彩磁カトレア文大壺》	中国美術館（北京）
		11月	集中講義・実技指導		トルコ国立アナドール大学
			学位授与機構　芸術学専門委員委嘱		（～ 2001/3/31）
			「自然の摂理と感動」『形FORME』257		
平成13年 2001	53	1月	島田文雄作陶展		さいか屋藤沢店
		2月	NHK新日曜美術館「陶芸家板谷波山の世界―光包む器」出演		2月25日
		4月	第41回伝統工芸新作展	《彩磁山法師文大皿》	日本橋三越
		5月	陶芸秀作展		現代工芸藤野屋
		5月	日本陶芸展	《彩磁山法師文大皿》	東京大丸ほか
		5月	第29回新作陶芸展	《彩磁山法師文陶筥》	日本橋三越
		6月	第1回島田文雄陶芸展		銀座・和光
		6月	島田文雄作陶展		下関大丸
		8月	「島田文雄陶芸展―端麗優雅な彩磁の世界」	《彩磁山法師文壺》	田園の美術館（8/7 ～ 9/30）
		9月	「日本の陶芸　ロクロ挽きの作品」研究発表		群山大学ほか（韓国）
		9月	第48回日本伝統工芸展	《彩磁山法師文大皿》	日本橋三越
		10月	島田文雄作品展		米子天馬屋ほか
		10月	陶芸小品展		東京美術倶楽部
		10月	国際美術展出品	《彩磁カトレア文大壺》	中国美術館（北京）
		10月	韓国世界陶磁博覧会／IAC会員展出品	《彩磁カトレア文大壺》	利川世界陶磁美術館（韓国）
平成14年 2002	54	1月	島田文雄作陶展巡回展		福山天満屋（広島県）ほか
		3月	島田文雄作陶展		横須賀さいか屋美術画廊（3/27 ～ 4/2）
		4月	第42回伝統工芸新作展	《彩磁山法師文大皿》	日本橋三越

和暦／西暦	年齢	月	活動・展覧会出品など	おもな作品名	会場、会期
		5月	中・日・韓陶芸ワークショップ招待作家		豫州国際陶芸コンヴェンションセンター(韓国)
		5月	中国耀州窯調査(玄奘三蔵会招待)		
		6月	島田文雄陶芸展		大沼山形本店(6/20 ～ 24)
		6月	国際陶芸交流授業		タコマ・コミュニティカレッジ（米国）
		6月	第30回新作陶芸展	《吹墨彩磁三法師文壺》	日本橋三越
		9月	第9回島田文雄作陶展	《彩磁山法師文大壺》	日本橋三越(9/3 ～ 9)
		9月	第49回日本伝統工芸展	《彩磁石榴花文大皿》	日本橋三越
		10月	現代陶芸の100年展		岐阜県現代陶芸美術館（10/12 ～ 2003/1/19）
		10月	島田文雄展		高松天満屋ほか
			国際陶芸展		タコマ大学美術館(米国)
平成15年 2003	55	2月	彩磁の華―島田文雄展		八木橋美術画廊（2/6 ～ 11）
		2月	チェキ記念国際陶芸展（トルコ）審査員（04、06年も）		
		3月	東急逸品会		
		3月	島田文雄陶芸展		渋谷東急本店(3/27 ～ 31)
		4月	東京藝術大学美術学部工芸科教授となる		
		6月	第5回島田文雄彩磁展	《彩磁泰山木文大壺》	現代工芸藤野屋(6/14 ～ 18)
		7月	島田文雄陶芸展		岐阜高島屋
		8月	島田文雄陶芸展		京都高島屋
		9月	第50回日本伝統工芸展	《吹墨彩磁朴花文大皿》	日本橋三越
		10月	島田文雄陶芸展		心斎橋大丸
		11月	国際陶芸交流事業		東京藝術大学
		12月	特別講義（04年、06 ～ 08年も実施）		清華大学美術学院(中国)
		12月	島田文雄陶芸展		神戸大丸
平成16年 2004	56	1月	ディスタンス-栃木県出身作家の現在-		栃木県立美術館(1/31 ～ 3/21)
		2月	NHK国際放送、ジャパノロジー「PORCELAIN」出演		2/22
		3月	美東会		心斎橋大丸
		4月	第44回伝統工芸新作展	《吹墨彩磁朴花文大皿》	日本橋三越
		5月	第2回島田文雄陶芸展		銀座・和光(5/12～19)
		5月	景徳鎮1000年記念国際陶芸展出品（出品作は景徳鎮陶磁学院収蔵）、シンポジウム発表		
		7月	第32回新作陶芸展	《彩磁山法師文香炉》	日本橋三越
		8月	韓国世界陶磁博覧会／IAC韓国大会参加・国際陶芸展出品	《彩磁朴花文大皿》	利川世界陶磁美術館(韓国)
		8月	花鳥の美・日本の心		平野美術館(8/21 ～ 10/11)
		8月	島田文雄陶芸特集展	《彩磁朴花文大壺》	日本橋三越(8/31 ～ 9/13)
		8月	中国龍泉窯青磁大皿調査		東京藝大、清華大、故宮博物院（9/19～28）
		8月	第51回日本伝統工芸展	《彩磁朴花文大皿》	日本橋三越
		11月	彩磁の美　島田文雄展	《彩磁朴花文大壺》	高輪プリンスホテル(11/11 ～ 14)
		11月	東亜国際交流展　招待参加		中国美術館（北京）
平成17年 2005	57	4月	第45回伝統工芸新作展	《彩磁朴花文十二角大皿》	日本橋三越
		8月	第10回島田文雄陶芸展	《彩磁朴花文大壺》	日本橋三越(8/30 ～ 9/5)
		10月	国際陶芸授業・陶芸シンポジウム・講演、国際陶芸展出品		ケレタロー市立美術館(メキシコ)(10/13 ～ 10/29)
		11月	韓日中国際シンポジウム、国際陶芸展招待参加		ミラル美術館（韓国）(11/15 ～ 19)
		11月	象嵌の技法：彩磁、釉彩のいろどり展		千葉県立美術館(11/26～2006/1/22)
		12月	陶芸制作論講義　工芸デザイン博士課程最終講義		中央大学校美術大学(韓国）（12/1 ～ 3）
平成18年 2006	58	1月	日韓陶芸学生交流展討論会		愛知陶磁資料館(1/7)
		1月	産学協同事業・チャイナペインティングの美展		芸大陳列館
		2月	萩陶芸シンポジウム パネリスト：三輪休雪、鄭寧、島田文雄		山口県立萩美術館(2/22)
		3月	島田文雄 香炉展－彩磁の美－	《彩磁桜花文香炉》	銀座・山下画廊(3/27 ～ 30）ほか
		4月	第6回島田文雄彩磁展	《彩磁山法師文大壺》	現代工芸藤野屋(4/15 ～ 19)
		4月	第46回伝統工芸新作展	《彩磁朴花文大皿》	日本橋三越
		5月	鶴屋百貨店第2回個展		鶴屋百貨店(5/17 ～ 23)
		5月	第34回新作陶芸展	《彩磁石榴花文面取壺》	日本橋三越
		8月	IAC（国際陶芸アカデミー）ラトビア総会、国際陶芸展出品		ラトビア国立美術館(リガ市)(8/12 ～ 24)
		9月	第53回日本伝統工芸展	《彩磁葉薊文大皿》	日本橋三越
		10月	第1回ISCAEE（国際陶芸教育交流学会）シンポジウム講演・国際陶芸展出品等		精華大学美術学院(北京)
		11月	島田文雄陶芸展		大阪大丸心斎橋店(11/1 ～ 7)
		12月	島田文雄陶芸展		神戸大丸(12/13 ～ 19)
平成19年 2007	59	1月	島田文雄陶芸展		藤沢さいか屋(1/17 ～ 23)
		4月	第47回伝統工芸新作展	《彩磁アカンサス文十二角皿》	日本橋三越
		5月	第35回新作陶芸展	《彩磁朴花文菱形壺》	日本橋三越
		5月	第3回島田文雄陶芸展	《彩磁アカンサス文壺》	銀座・和光(5/22 ～ 30)
		7月	島田文雄陶芸展	《彩磁オリーブ文香炉》	菊池画廊(7/5 ～ 11)
		8月	萩陶芸大リーグ、三輪休雪・島田文雄対談講演会		萩陶芸作家協会主催
		9月	第54回日本伝統工芸展	《彩磁立木朝鮮朝顔文大皿》	日本橋三越
		10月	彩磁賛歌　島田文雄陶芸展	《彩磁泰山木文大壺》	川口そごう(10/11 ～ 18)
		10月	ISCAEE英国学会（シンポジウム講演、国際陶芸展出品）		クリエイティブ芸術大学（10/16 ～ 27）
		11月	国際陶芸ガラスシンポジウムSERES'07 講演		トルコ・アナドール大学
		11月	島田文雄陶芸展		米子高島屋画廊(11/28 ～ 12/4)
			共著『13世紀～14世紀の龍泉窯陶磁技法"青磁大皿"の復元的焼成研究』（平成16 ～ 18年度科研報告書、代表：島田文雄）		
			「研究ノート　日本・韓国における越州窯青磁の役割」『日本陶磁芸術』1		
平成20年 2008	60	1月	日韓中国際陶芸展		東京藝大陳列館(1/23 ～ 28)
		1月	日韓中陶芸シンポジウム		東京藝大講義室(1/27)
		2月	島田文雄陶芸展		岡山高島屋画廊(2/13 ～ 19)
		3月	中国芸術研究院客員教授就任		
		4月	第48回伝統工芸新作展	《彩磁朝鮮朝顔文大皿》	日本橋三越
		5月	陶の粋		赤坂游ギャラリー
		5月	第36回新作陶芸展	《彩磁朝鮮朝顔文大皿》	日本橋三越
		6月	掌中の陶芸　現代水滴の世界展	《彩釉魚文水滴》	とちぎ蔵の街美術館(6/3 ～ 7/21)
		7月	日韓中サマーセミナー		東京藝術大学(7/7 ～ 13)
		8月	ISCAEEケニヤ大会（講演）・同国際陶芸展出品		ケニヤ国立美術館(8/3 ～ 18)
		8月	日韓中新世代交感展		中国広州美術館(8/26 ～ 30)
		9月	IAC中国大会、同国際陶芸展出品		中国西安市コンベンションホール（9/9 ～ 14）
		9月	集中講義、醴陵釉下彩研究		精華大学
		9月	第55回日本伝統工芸展	《彩磁花文大皿》	日本橋三越
		10月	第11回島田文雄作陶展	《彩磁朝鮮朝顔文大皿》	日本橋三越(10/28 ～ 11/3)
		10月	所蔵名品展・日本近代陶芸の歩み		岐阜県現代陶芸美術館（10/11 ～ 2009/6/28）
平成21年 2009	61	2月	島田文雄展		大宮そごう(2/3～9)
		2月	第5回韓国国際陶芸ビエンナーレ国際審査		2/10 ～ 12
		2月	島田文雄展		藤沢さいか屋(2/18 ～ 24)
		4月	ISCAEE韓国大会		江南大学ほか(4/23 ～ 5/7)
		5月	韓国ヨンヲル国際首長大学シンポジウム		5/20 ～ 21
		5月	第37回伝統工芸陶芸部会展（※新作陶芸展から改称）		日本橋三越
		8月	ギャラリーきょう開館記念4人展		ギャラリーきょう(8/25 ～)
		9月	第56回日本伝統工芸展		日本橋三越
		10月	第7回島田文雄彩磁展	《彩磁アカンサス文十二角皿》	現代工芸藤野屋(10/23 ～ 27)
		12月	島田文雄　特商会		横浜そごう(12/26～27)
			共著『釉下彩技法と中国絵画哲学「写意」との関係』（平成20年度芸術活動基盤充実事業報告書）		
平成22年 2010	62	4月	島田文雄展		池袋西武(4/14 ～ 20)
		4月	第50回東日本伝統工芸展（※伝統工芸新作展より改称）		日本橋三越
		4月	日本陶芸クラブ講演		4/29
		4月	島田文雄展		渋谷東急(4/29 ～ 5/5)
		5月	第2回島田文雄展		熊谷八木橋(5/19 ～ 24)
		5月	第38回伝統工芸陶芸部会展	《釉下彩木蓮文壺》	日本橋三越
		6月	台湾国際交流作品展出品		(6/2 ～ 28)
		6月	島田文雄展		大分トキハ(6/24 ～ 30)
		6月	島田文雄食器展		日本橋三越(6/30 ～ 7/13)
		7月	島田文雄展	《彩磁アカンサス文十二角皿》	佐野市立吉澤記念美術館（7/10 ～ 9/26）
		8月	講演「彩磁に取り組む」		佐野市立吉澤記念美術館（8/22）
		9月	タコマ研修・展示会		(9/6 ～ 20)
		9月	第57回日本伝統工芸展	《彩磁鳥文大皿》	日本橋三越(9/22 ～ 10/4)
		10月	日本陶芸クラブ会員展審査		(10/31)
		11月	学会研究会「釉下彩」講師		(11/20)
		12月	滞在研究（醴陵釉下彩、科研費）、講義		清華大学美術学院(北京)（12/15 ～ 30）

和暦／西暦	年齢	月	活動・展覧会出品など	おもな作品名	会場、会期
平成23年 2011	63	2月	島田文雄展		福山天満屋 (2/16 ～ 22)
		3月	滞在研究（だみ・墨弾き技法）、講演		嶺南大学（韓国） (3/17 ～ 21)
		3月	講演		嶺南大学（韓国） (3/20)
		3月	滞在研究（だみ・墨弾き技法）		景徳鎮陶磁学院（中国）(2/22 ～ 28)
		5月	藝大陶友会総会記念講演		東京藝術大学 (5/15)
		7月	第12回島田文雄作陶展	《彩磁向日葵文大壺》	日本橋三越(7/6～12)
		9月	第58回日本伝統工芸展	《青白磁蓬ライ蕉文輪花鉢》	日本橋三越 (9/21 ～ 10/3)
		9月	陶芸授業（客員教授、2週間）		清華大学（北京）
		10月	島田文雄展		米子天満屋 (10/12 ～ 18)
		10月	国際陶芸シンポジウム		タコマコミュニティーカレッジ（米国）(10/6 ～ 15)
		11月	鳳鳴会出品		山下画廊（銀座）
		12月	滞在研究（だみ・墨弾き技法）、講演		景徳鎮陶磁学院（中国）(12/14 ～ 23)
			公開講座（上級講座・中級講座・初級講座）		東京藝大陶芸研究室
			一般陶芸愛好家・ISCAEE学会研究員のための陶芸講座開催		東京藝大陶芸研究室
			景徳鎮国際陶芸展 審査員		
平成24年 2012	64	2月	『醴陵釉下五彩磁学術討論文集』（故宮博物院ほか）に論文掲載		
		2月	講演「醴陵釉下五彩―世界陶磁藝術の革新」		故宮博物院（北京）
		4月	第52回東日本伝統工芸展	《青白磁栄螺文輪花鉢》	日本橋三越 (4/18 ～ 23)
		4月	島田文雄展		鶴屋百貨店（熊本） (4/25 ～ 5/1)
		5月	芸大陶友会10周年記念講演		東京藝術大学 (5/13)
		5月	講義・講演		清華大学・中国芸術研究院（北京）(5/30 ～ 6/13)
		6月	第8回島田文雄彩磁展	《彩磁鳥文大皿》	現代工芸藤野屋 (6/22 ～ 26)
		6月	滞在研究（醴陵釉下彩、科学研究費）		北京・龍泉 (6/27 ～ 7/3)
		6月	醴陵釉下彩シンポジウム講演		故宮博物院（北京） (6/28)
		6月	講演「日本の陶磁と教育」講演		中国美術学院(浙江省) (6/29)
		7月	講演		中国美術学院(浙江省)
		8月	滞在研究（醴陵釉下彩焼成、科学研究費）		広州石湾龍窯（中国） (8/6 ～ 16)
		8月	石湾陶磁博物館シンポジウム		石湾陶磁博物館（杭州）(8/6 ～ 16)
		9月	第59回日本伝統工芸展	《青白磁栄螺文輪花鉢》	日本橋三越 (9/19 ～ 10/1)
		9月	客員教授として陶芸授業を実施（2週間）		清華大学（北京）
		9月	講演「東京藝大、陶芸講座のいま」		菊池寛実智美術館（東京）(9/2)
		9月	IAC国際陶芸展出品		ニューメキシコ州立美術館（米国）(9/10 ～ 26)
		10月	ギャラリートーク「陶芸家と味わう波山の魅力」		佐野市立吉澤記念美術館（栃木）(10/6)
		10月	JR大人の休日クラブ会員講座（講演と実技講座）		東京藝術大学
		11月	鳳鳴会出品		山下画廊（銀座） (11/26 ～ 12/3)
			公開講座（上級講座・中級講座・初級講座）		東京藝大陶芸研究室
			一般陶芸愛好家・ISCAEE学会研究員のための陶芸講座開催		東京藝大陶芸研究室
			2012春季国際陶芸展招待出品		南ソウル大学（韓国）
			IAC国際陶芸展		ニューメキシコ州立美術館（米国）
			『日本の美の源流を求めて―美の系譜』発行（共著）		
			東日本大震災被災文化財 修復支援事業		
平成25年 2013	65	4月	島田文雄展		アルス画廊（表参道） (4/2 ～ 14)
		4月	学術研究振興会欧州支部総会シンポジウム講演「International exchange in Ceramics between Japan, Korea, China」		ドイツケルン国際文化センター (4/27)
		5月	第7回中国宜興国際陶磁藝術祭出品		中国宜興国際陶磁博物館（5/3 ～ 6）
		5月	講演		無錫職業工芸技術学院（中国）(5/7)
		5月	島田文雄展		岡山天満屋 (5/22 ～ 28)
		6月	島田文雄展		広島天満屋 (6/26 ～ 7/1)
		6月	女流工芸展審査		(6/30)
		8月	島田文雄展		高松天満屋 (8/7 ～ 13)
		9月	東洋茶文化シンポジウム講演「茶文化と陶磁器の歴史的展開」		東京藝術大学 (9/27)
		9月	日本・中国「東洋茶文化交流」展覧会		東京藝大陳列館 (9/25 ～ 10/6)
		9月	ISCAEEトルコ大会（シンポジウム講演、展覧会出品）		アクデニズ大学（トルコ）(9/28～10/11)
		10月	清華大学開学記念美術展出品		精華大学 (10/30 ～ 11/3)
		11月	鳳鳴会出品		山下画廊（銀座）
		11月	中・日東洋茶文化交流シンポジウム講演「茶文化と陶磁器の歴史的展開」(11/2)、展覧会出品		清華大学美術学院（北京）(11/1 ～ 6)
		11月	女流工芸展審査		京都美術館 (11/19 ～ 20)
		11月	金沢卯辰山工房にて講演・実技指導		金沢卯辰山工房 (石川) (11/28)
		12月	第13回島田文雄作陶展	《青白磁花卉文大壺》	日本橋三越 (12/18 ～ 24)
平成26年 2014	66	4月	第54回東日本伝統工芸展	《彩磁花卉文大壺》	日本橋三越 (4/16 ～ 21)
		4月	「龍泉窯古窯址（大窯、金村）訪問記」『陶説』735号掲載		
		6月	講演「世界の陶芸技法と日本茶文化の特異性―日本・米国・中国・ケニア」（裏千家東京第7支部総会）		杉並区勤労福祉会館（東京）(6/7)
		6月	講演「焼き物の魅力」		石川邸（群馬県） (6/14)
		7月	島田文雄作陶40周年記念展	《彩磁花卉文大壺》	現代工芸藤野屋 (7/4 ～ 8)
		8月	アジア未来会議AFCシンポジウム講演・作品展出品		ヤナウラ大学（インドネシア）(8/21 ～ 26)
		8月	山形県展審査		(8/28)
		8月	北斗市市民講座講演		(8/30)
		9月	第61回日本伝統工芸展	《青白磁榭文大皿》	日本橋三越 (9/17 ～ 29)
		9月	IAC英国大会（シンポジウム講演、展覧会出品）		ダブリン城（アイルランド）(9/5 ～ 12)
		10月	島田文雄展		藤沢さいか屋 (10/1 ～ 7)
		10月	茶器展		寛土里（四谷） (10/5 ～ 13)
		10月	中国茶境展出品、茶文化シンポジウム講演「亜州陶磁的多様性」		重慶市（10/8 ～ 12）
		11月	鳳鳴会出品		山下画廊（銀座）
		11月	島田文雄・監修ノリタケ　新作コレクション発表会		銀座ノリタケ店・日本橋三越（11/25）
平成27年 2015	67	1月	陶芸研究室展・ノリタケ特別企画展出品		藝大アートプラザ (1/6 ～ 18)
		3月	東京展（3月24 ～ 29日）審査		北トピア　王子 (3/24)
		4月	第55回東日本伝統工芸展	《青白磁花卉文大皿》	日本橋三越 (4/15 ～ 5/12)
		4月	中国藝術研究院シンポジウム		中国芸術研究院 (4/8 ～ 13)
		4月	講演「文明の交流と融合―現代陶芸における東西対話」		東京藝術大学 (4/10)
		4月	埼玉女流工芸展　審査		(4/21)
		6月	島田文雄展		大分トキハ (6/18 ～ 24)
		8月	講演「庭園美術館　香水塔調査結果」		東京都庭園美術館 (8/29)
		9月	島田文雄展		一畑百貨店（松江市） (9/17 ～ 23)
		10月	島田文雄展		現代工芸藤野屋 (10/9 ～ 13)
		10月	ISCAEE中国大会（シンポジウム講演「中国陶磁の伝播と融合」）		景徳鎮陶磁学院（中国）(10/15 ～ 23)
		11月	鳳鳴会出品		山下画廊（銀座）
平成28年 2016	68	3月	東京藝術大学退職予定		

島田文雄 退任記念展

会　期／2015年12月15日（火）～ 12月24日（木）
会　場／東京藝術大学大学美術館 陳列館一階
協　力／東京国立近代美術館
　　東京藝術大学大学美術館
　　佐野市立吉澤記念美術館
発　行／東京藝術大学美術学部・東京藝術大学大学美術館
印　刷／株式会社 エス・クリエイティヴ

複製・転写を禁ずる © 島田 文雄
© Fumio Shimada 2015 Printed in Japan.